

市長提案説明要旨

平成29年7月19日

本日ここに平成29年第2回鹿嶋市議会臨時会を招集いたしましたところ、議員各位には、何かとご多用のところご参集を賜り、厚くお礼を申し上げます。

初めに、この度の九州北部の豪雨災害において、お亡くなりになられた方々に対し、心からご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様にお見舞い申し上げます。

被災された皆様の一日も早い生活再建と被災地の復旧・復興をお祈り申し上げます。

全国各地で毎年のように気象災害が発生しております。本市においても、気象情報に留意し、事前の防災対策と発災時の減災行動に万全を期してまいります。

さて、今月10日に開催された国際オリンピック委員会（IOC）理事会において、カシマサッカースタジアムが2020年東京オリンピックのサッカー競技会場に追加決定されました。

2002 FIFAワールドカップに続く、世界的規模のスポーツイベントであるとともに、平和や文化の祭典とも言われるオリンピックを開催できることは、大変光栄なことであり、議員各位をはじめ、市民や関係者の皆様とともにこの喜びを分かち合いたいと思っております。

平成23年3月11日の東日本大震災では、多くの市民や事業者などが被災するとともに、カシマサッカースタジアムにおいてもスタンドや照明機器が破損するなど、大きな被害を受けました。

こうした中、国内外の多くの皆様から温かい励ましとご支援をいただき、市民や各種団体、事業者などが互いに助け合い、一丸となって力強く復旧・復興を進めてまいりました。

この元気になった鹿嶋の姿と、悠久の歴史や豊かなスポーツ文化など本市の魅力を世界に発信するとともに、ご支援いただいた方々へ感謝を伝えていきたいと考えております。

市では、オリンピック開催決定の翌日11日に、関係機関との連絡調整や機運醸成、開催に向けた様々な取り組みを進めていくために、重点プロジェクト推進室内に、東京オリンピック・パラリンピック推進担当を配置しました。

選手や世界各国から訪れる方々を、鹿嶋ならではの「おもてなし」でお迎えし、交流を深め、温もりのある大会となるよう、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会や国県など関係機関と連携を図り、市民や各種団体、事業者

などととも、「オール鹿嶋」で万全な準備を進めてまいります。

本市では、将来のまちづくりを展望し、人口減少や少子高齢化、グローバル化、地方創生問題などに積極的な取り組みをしておりますが、世界から注目を浴びるオリンピック開催は、スポーツに限らず、道路網など社会基盤や国際交流、観光、教育、芸術文化などの様々な分野において、更なる鹿嶋の飛躍を加速させる大きなチャンスでもあります。

オリンピックを単なる一過性のイベントに終わらせることなく、本市の魅力や強みを最大限に生かし、市民の皆様とともに知恵やアイデアを出し合い、地域の活性化や市民力の向上など、取り組みの成果が後世の財産につながるよう推進してまいります。

そして、市民一人ひとりが誇りと郷土愛を持ち、次代を担う子どもたちが夢と希望を持てるまちづくりを推進してまいります。

《提出議案等》

それでは、提出しました議案についてご説明申し上げます。

提出議案は、補正予算議案1件であります。

オリンピック開催の決定を受けて、市民や市民団体などの機運醸成や、次代を担う子どもたちが夢や希望を育み、国際理解の促進や平和社会へ貢献する人材育成などの好機として、オリンピック・パラリンピックの歴史や理念、開催意義などを学べる環境づくりを進めてまいります。

具体的には、記念イベントの開催などによるオリンピック推進事業、オリンピック特設ブース設置による小中学校の学校図書館経費や図書館資料整備経費を計上しました。

今後、大会の成功とオリンピックを生かしたまちづくりの推進に向けて、「オール鹿嶋」による体制を構築し、様々な取り組みを推進してまいりますので、議員各位におかれましても、ご理解、ご協力をお願いいたします。

私の説明は以上で終わりますが、お手元の議案書によりご審議のうえ、適切な議決を賜りますようお願いいたします。